

2018(平成30)年度 沖縄国際大学入学試験問題（前期）

地域行政学科・地域環境政策学科・産業情報学科・日本文化学科・人間福祉学科(福祉)

【選択科目：倫 理】

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 入学志願票及び受験票に記入された科目を解答すること。
3. 入学志願票及び受験票に記入された以外の選択科目を解答した場合は、無効とする。
4. 筆記用具は、鉛筆（HB）または、0.5 ミリのシャープペンシル（HB）に限る。
5. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもよい。
7. 試験終了後、解答した解答用紙のみを提出すること。問題冊子は持ち帰ること。

2018(平成30)年度 沖縄国際大学入学試験問題(前期)

地域行政学科・地域環境政策学科・産業情報学科・日本文化学科・人間福祉学科(福祉) 【倫理】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

I. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

キリスト教は今日、その信者数では世界〔 ① 〕の宗教となるまで発展してきたが、その歴史はけっして平坦なものではなかった。教義の解釈を巡ってしばしば幾多の内部対立から組織の分裂を生み、時には教派間で殺し合いや戦争に及ぶこともあった。

そうした中でも、激しい対立から内乱や戦争にまで到ったのが、16世紀以降に起こった数々のキリスト教を巡る出来事であった。まず、16世紀の初頭、ドイツの神学者〔 ② 〕は、当時、(A)ローマ＝カトリック教会が窮乏する財政立て直しのために発行・販売した〔 ③ 〕に強く抗議し、〔 ④ 〕を突き付けた。それは、(B)〔 ③ 〕を購入すれば罪が許されるというカトリック教会のやり方は全くの誤りで、信者に心からの悔い改めを軽視させ、唯一の救い主であるキリストへの信仰を妨げるだけだ、という考えからの批判であった。こうした抗議は大きな反響をドイツ国内に呼び、ここからいわゆる〔 ⑤ 〕運動が始まった。また、カトリック教会に反対して新しいキリスト教運動を進める人たちは、〔 ⑥ 〕と呼ばれるようになった。これに対し、カトリック教会は〔 ② 〕を破門し、彼に賛同する者たちの運動を弾圧した。弾圧された人たちの一部は暴徒化し、そこからドイツ〔 ⑦ 〕戦争が引き起こされた。

フランス生まれの神学者〔 ⑧ 〕は、ドイツでの新しいキリスト教運動に影響され、フランスでそれを推し進めようとしたが迫害され、〔 ⑨ 〕に亡命して、その地で運動を展開した。〔 ⑧ 〕は、(C)神の絶対的な主権を主張し、人間の救済は神の意志によって定められており、人間がこの世で善をなすか否かは、救済には一切無関係であると説いた。こうした考え方は、〔 ⑩ 〕と言われる。彼の思想は、〔 ⑪ 〕や〔 ⑫ 〕などの他国にも広まったが、〔 ⑫ 〕の地で徹底した信仰によって純化された新しいキリスト教をめざした人たちは、〔 ⑬ 〕と呼ばれた。

ところが、〔 ⑫ 〕国では、国王の離婚を巡ってローマ＝カトリック教会と国王が対立する中で、カトリック教会から離脱し、国王を首長とする独自の宗教組織を〔 ⑭ 〕として国王派が樹立したため、〔 ⑬ 〕の人々は、国王らの〔 ⑭ 〕派としだいに対立するようになった。そして、17世紀に入ると彼らは自分たちの信仰の自由のために武器を取って内乱を引き起こし、ここに〔 ⑬ 〕革命が勃発することになった。また、彼らの中の一部の人たちは、信仰の自由を求めて新天地へ向かって行った。そして、その先で自分たちの信仰に基づく新しい国づくりをめざし、18世紀に本国との激しい独立戦争・革命を経て、彼らは〔 ⑮ 〕の建国を勝ちとった。

他方、こうした各地における新しいキリスト教運動を目の当たりにしたローマ＝カトリック教会の方でも、それらに対抗するために〔 ⑯ 〕と言われる運動を展開した。その中心を担ったのが、〔 ⑰ 〕出身の〔 ⑱ 〕が創設した〔 ⑲ 〕である。彼らは、ローマ教皇の絶対的な至上権を掲げて〔 ⑥ 〕勢力に対抗するとともに、世界各地へ精力的に布教・伝道を行なった。わが国にキリスト教が〔 ⑳ 〕らによって伝えられたのも、そうした中であつた。

問1 本文中の〔 ① 〕～〔 ⑳ 〕に入るのもっとも適した語句・人名を、次の語群中から選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ丸数字中には同じものが入り、語句・人名は一度だけ用いるものとする。(各1点)

【語群】

- | | | | |
|-------------------|--------------------------|-----------------|-----------------|
| (ア) アメリカ合衆国 | (イ) イエズス会 | (ウ) イギリス | (エ) イグナティウス＝ロヨラ |
| (オ) イスラエル | (カ) イタリア | (キ) ウィクリフ | (ク) オランダ |
| (ケ) カルヴァン (カルヴィン) | (コ) ギリシア | (サ) 95 か条の意見書 | |
| (シ) 59 か条の抗議文 | (ス) 国教会 | (セ) 最大 | (ソ) 三番目 |
| (タ) 宗教改革 | (チ) 贖宥状 ^{しよくゆう} | (ツ) スイス | (テ) スペイン |
| (ト) ドイツ語訳聖書 | (ナ) 二番目 | (ニ) 農民 | (ヌ) 反宗教改革 |
| (ネ) ピューリタン | (ノ) フス | (ハ) フランシスコ＝ザビエル | |
| (ヒ) プロテスタント | (フ) ユグノー | (ヘ) 予定説 | (ホ) ルター |

問2 下線部(A)の「カトリック」の意味として、もっとも相応しいものを次から選んで、記号で答えなさい。(1点)

- | | | | |
|-----------|-------------|------------|-----------|
| (ア) 古代の教義 | (イ) 国家公認の宗教 | (ウ) 普遍的な教え | (エ) 東方の信仰 |
| (オ) 教父の思想 | | | |

問3 次の(1)～(4)の意味としてもっとも適切なものを、下から選び、記号で答えなさい。(各1点)

- | | | | |
|----------|-----------|------------|------------|
| (1) 福音主義 | (2) 信仰義認説 | (3) 聖書中心主義 | (4) 万人司祭主義 |
|----------|-----------|------------|------------|
- (ア) 人間は教会の権威によってではなく、神への信仰を通じて自ら罪を悔い改めることによってのみ、神の意志にかなうことができるとする考え方
- (イ) すべてのキリスト教信者は、教会の権威や教義から自由であり、自己の信仰によって直接神と関わる者であるとする考え方
- (ウ) 聖書に記されたイエス＝キリストのことばを信じ、その神の恩寵（恵み）への信仰のみによって救いは得られるとする考え方
- (エ) 聖書に記されたことばが唯一、神の真理を知る源泉であり、人間の救いへの道を示すものであるとする考え方

問4 下線部(B)と(C)を説いた思想家は、それぞれどの書物の著者か、次の中から選んで、記号で答えなさい。(各1点)

- | | | |
|----------------|---------------|------------|
| (ア) 『神の国』 | (イ) 『キリスト教綱要』 | (ウ) 『神学大全』 |
| (エ) 『キリスト者の自由』 | (オ) 『神曲』 | |

Ⅱ. 次の文章は 19 世紀の哲学者・経済学者 K. マルクスについて記述したものである。これを読んで後の問いに答えなさい。

ドイツ観念論の完成者 [①] において、世界の一切は、精神の自己展開であった。しかしマルクスは、この [①] の考え方を「逆立ちしている」として批判した。マルクスによれば、世界を動かす根本は、精神や理性ではなく、生活であり、生きるための物の生産であり、生産のための人間と人間との関係（生産関係）である。生活なくして精神や理性はありえない。このことをマルクスは、建築物の比喩を用いて、[②]（生産様式）が [③]（精神およびその産物）を規定する、と表現した。

マルクスによれば、生産関係は社会の生産力の進展に応じて変化する。生産関係の変化にしたがって [③] も変わる。マルクスはこの変化の過程こそが歴史だと考えた。この歴史観はしばしば [④] と呼ばれる。

マルクスにとって今日の資本主義社会は、人類社会が原始共産制にはじまり、奴隷制、封建制と変化してきたところに続く第四の段階に位置づけられる。資本主義において労働者は、自分の労働力を売って、賃金を得て、それによって自分の生活を維持しなければならない。だが人間の労働は生活維持に必要な賃金相当分をはるかにこえた価値をもつ生産物を生産する。マルクスによれば、この生産物の価値から賃金を差し引いたものが剰余価値であり、資本家はこれを取得することによって [⑤] を得ているという。

こうして資本家においては富が、労働者においては貧困が集中する。この階級格差は生産と消費の矛盾を生じさせ、周期的に [⑥] を引き起こす。[⑥] は労働者の貧困をさらに促進することから、資本家と労働者の階級対立を激化させ、そこから対立の解消と新しい生産関係の樹立をめざす階級 [⑦] が生じてくる。この階級 [⑦] によって期待される新たな体制こそが、生産手段の [⑧] 所有を廃止して共同的所有を目指す社会主義であり [⑨] 主義である。

マルクスによれば、[⑨] 主義社会には二つの段階がある。その低次の段階においては、未だ労働は生活のための手段にとどまり、社会全体の生産力の発達も十分ではなく、各人は能力に応じて労働するが、分配は労働能力とその働きの程度に応じて行われるという点で、所得の上では不平等が残る。しかし、より高次の段階においては、労働が単なる生活のための手段ではなく、労働そのものが生活の第一の欲求となる。個人の全面的発達とともに、生産力が非常に高まり、各人は能力に応じて働き、分配は各人の [⑩] に応じておこなわれるとされる。

問1 上の文章の [①] ～ [⑩] に最もよくあてはまる語句・人名を記入しなさい。
(各2点)

問2 次の(ア)～(オ)の中からマルクスの著作を一つ選び、記号で答えなさい。(1点)

- (ア) 『資本論』
- (イ) 『国富論』
- (ウ) 『精神現象学』
- (エ) 『純粹理性批判』
- (オ) 『正義論』

問3 一時、資本主義国家と世界を二分するほどの勢力をもっていた社会主義国家群も、その大半は前世紀のうちに姿を消し、また社会主義体制を残している国々においても近年盛んに資本主義経済の部分的導入が進められている。この現状において、今なおマルクスの理論を学ぶ必要があるとすれば、それはどのように説明できるか。下に示す二つの語を用いながら80字以内で記述しなさい。(6点)

経済的な豊かさ

不平等

Ⅲ. 次の各文を読み、後の問いに答えなさい。

- (A) ガウタマ＝シッダルタ（ゴータマ＝シッダッタ）は、35歳の時に悟りを開いて仏陀となったとされる人物である。仏陀は、人生における苦の原因と、苦を克服する方法を説いた。苦は、(ア)四苦と、さらに愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦を加えて、(①)からなる。それは、貪（貪り）、瞋（怒り）、癡（愚かさ）という三毒などの悪い働きをする心、すなわち(②)が原因である。あらゆるものはそれ自体として存在しないこと（諸法無我）、常に形を変えたり消えたりすること（諸行無常）を悟ることによって苦を減して安らいだ状態になれるというのが仏陀の教えである。
- (B) 日本における仏教の展開のなかで、平安時代に唐に留学し、新たな仏教を伝えた二人の代表的な僧がいる。一人は最澄で、比叡山に延暦寺を建立し天台宗をひろめた。彼は、この世に生きるものはすべて仏性をもっており悟りをひらき成仏できるとする「(③)衆生悉有仏性」を説いた。もう一人は(イ)空海である。空海の開いた真言宗は、身密、口密、意密の(④)の行を通して現世における身が仏となる「(⑤)成仏」という考え方を中心としている。
- (C) 幕末には、様々な思想が登場し、社会の変革を促した。たとえば、水戸学にその起源をもち、藤田東湖らによって唱えられた(ウ)尊王攘夷思想を挙げることができる。またその他には和魂洋才という考え方も挙げることができよう。アヘン戦争で清が敗戦したことに衝撃を受けた佐久間象山の代表的な言葉に「東洋(⑥)、西洋(⑦)」がある。この言葉は和魂洋才の考えをより具体的に表しているといえる。

問1 上の各文(A)～(C)の(①)から(⑦)に入るもっとも適当な語句あるいは人名をそれぞれ漢字2字で答えなさい。(各2点)

問2 下線部(ア)四苦の具体的内容をそれぞれ漢字1字で4つ答えなさい。(各1点)

問3 以下の語群から(イ)空海の著作を2つ、建立した寺を1つ選び記号で答えなさい。(順不同、各1点)

- (a) 『三教指帰』 (b) 『喫茶養生記』 (c) 永平寺 (d) 『歎異抄』 (e) 『十住心論』
(f) 金剛峯寺 (g) 『顕戒論』 (h) 『選択本願念仏集』 (i) 龍安寺

問4 下線部(ウ)尊王攘夷思想は、どのような思想で、幕末という時代にいかなる影響を与えたか、60字以内で説明しなさい。(6点)

Ⅳ. 次の文章は青年期の特徴について記述したものである。これを読んで後の問いに答えなさい。

〔 ① 〕という身体的特徴が変化する時期になると、〔 ② 〕への意識が向きやすくなるといわれている。その中で、〔 ② 〕の区別を明確にし、さまざまな自分の要素や体験をひとまとめにして自分を作りあげる。また、自分の気持ちや行動、考えなどをコントロールできるようになる。これを〔 ③ 〕の目覚めという。心身ともに大きく変化するこの時期をフランスの思想家ルソーは「〔 ④ 〕」と表現している。

また、〔 ② 〕への意識の高まりは、青年期に見られるさまざまな特徴に影響を与えている。例えば、自信や優越感などの自分への肯定的感覚から〔 ⑤ 〕が高まることがあげられる。その他に、他人と比較して自分の能力、身体、性格が劣っていると思い悩む〔 ⑥ 〕が生じやすいという特徴も背景には〔 ② 〕への意識の高まりが考えられる。つまり、〔 ② 〕へ意識を向けることは、青年を成長させるものであり、同時に悩みを生み出すものとなる。その悩みは人生において避けては通れないものであり、(A)必要なものとさえいえる。このような青年期において、悩みの相談相手として重要な相手は〔 ⑦ 〕とされており、〔 ⑦ 〕との関係は自己の安定と成長を促す重要な役割を担っている。〔 ⑧ 〕は『ニコマコス倫理学』でフィリアについて「〔 ⑦ 〕は第二の自己」と述べている。

問1 〔 ① 〕～〔 ⑧ 〕に適切な語句を次の語群から1つ選び、記号で答えなさい。

(各1点)

<語群>

- | | | | |
|---------------|--------------|------------|--------------|
| (ア) 親 | (イ) 教師 | (ウ) 友人 | (エ) 恋人 |
| (オ) 自分と他者 | (カ) 性 | (キ) 自我 | (ク) 劣等感 |
| (ケ) 絶望感 | (コ) 孤独感 | (サ) 基本的信頼感 | (シ) 自己愛 |
| (ス) 第二次成長 | (セ) 第二反抗 | (ソ) 第二の誕生 | (タ) 第二性徴 |
| (チ) 発達課題 | (ツ) 心理的離乳 | (テ) うつ状態 | (ト) アイデンティティ |
| (ナ) フラストレーション | (ニ) アンビヴァレント | (ヌ) モラトリアム | (ネ) アリストテレス |
| (ノ) アリエス | (ハ) エリクソン | (ヒ) レヴィン | (フ) ミード |
| (ヘ) サブカルチャー | (ホ) ジェンダー | | |

問2 下線(A)の理由について60字以内で説明しなさい。(5点)

Ⅴ. ペットショップで購入した動物を引越しのため処分しなければならなくなった。引き取り手はいない。その動物は人に危害を与えることはないため、環境の良い近くの森に放すことにした。この判断の是非についてあなたの考えを理由もあわせて60字以内で述べなさい。(6点)

